

地域計画

策定年月日	令和7年3月3日
更新年月日	()
目標年度	令和16年度
市町村名 (市町村コード)	千早赤阪村 273830
地域名 (地域内農業集落名)	桐山地区 (桐山)

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	9 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	9 ha
② 田の面積	8.8 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	0.2 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	4.8 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	0 ha
(参考) 区域内における70才以上の農業者の農地面積の合計	4.8 ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	1.9 ha
(備考)	

注1:①については、農業振興地域担当部局と調整の上、記載してください。

2:②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積(現況地目)に基づき記載してください。

3:④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積を記載してください。

4:⑤については、区域内に特定することができない場合には、引き受ける意向のあるすべての農地面積を記載の上、備考欄にその旨記載してください。

5:(参考)の区域内における70才以上の農業者の農地面積等については、できる限り記載するように努めてください。

6:「区域内の農用地等面積」に遊休農地が含まれている場合には、備考欄にその面積を記載してください。

(2) 地域農業の現状及び課題

水稻が主要作物であり、自己所有農地を自ら耕作しており、農地維持の意向が高い、70歳以上の高齢者が半分以上を占め、若手農業者はおらず、高齢化が進んでいる。そのため、今後、離農や規模縮小による遊休農地が増加することが懸念されている。併せて水路等の農業用施設の維持管理が負担になってきている。また、イノシシ等の獣害被害や営農環境が悪いため、ある一定の基盤整備をしなければ、持続的な農業経営をすることができない課題がある。

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

新たな特産品の開発や基盤整備などにより、新規の若手農業者の参入・定着に積極的に取り組みつつ、水稻を中心とした保全的農業も、地域農業者がまとまって継続していく。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1) 農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針

地区内外の若手担い手に優先的に集積集約を行い、受け入れを促進するとともに、困難なエリアでは保全的農業により、農地利用を図る。

(2) 担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標

現状の集積率	6.6 %	将来の目標とする集積率	35 %
--------	-------	-------------	------

(3) 農用地の集団化(集約化)に関する目標

地区内農業者や地区外からの参入者への集約を目指す。

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1)農用地の集積、集団化の取組
営農環境改善に取り組み、新規参入を促進し、農地中間管理機構を活用して、担い手への集積集約を図る。
(2)農地中間管理機構の活用方法
貸付希望農地を農地中間管理機構に情報提供するなど、地区外からの農業者を募る。
(3)基盤整備事業への取組
新規参入や保本的農業の継続のため、農道や水路等の整備を行い、耕作しやすい環境づくりを進めていく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組
担い手の新規参入を図りつつ、保本的農業を継続するための組織づくりに取り組む。 また、参入した若手に学んでもらう環境を作り、後継者を育成していく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組
村内事業者へ委託し、農地の維持管理を行う。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)

☒ ①鳥獣被害防止対策	☐ ②有機・減農薬・減肥料	☐ ③スマート農業	☐ ④畑地化・輸出等	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☐ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☐ ⑨耕畜連携等	☒ ⑩その他

【選択した上記の取組内容】

①イノシシ等の被害が拡大しないよう防止柵や箱わなを設置するとともに、目撃情報や捕獲情報があった場合には鳥獣被害対策実施隊と連携し、被害防止対策に取り組む。併せて地域内の捕獲人材の確保・育成を進める。
また、電気柵等の経年劣化による老朽化があった場合は、補助金の活用を検討するとともに、電気柵等を整備する。
⑩基盤整備の検討や地域ぐるみの保全活動に取り組む組織づくりを検討する。

4 地域内の農業を担う者一覧(目標地図に位置付ける者)

属性	農業を担う者 (氏名・名称)	現状			10年後 (目標年度:令和 16 年度)				
		経営作目等	経営面積	作業受託面積	経営作目等	経営面積	作業受託面積	目標地図上の表示	備考
利用者	A	水稻、野菜、果樹	0.6 ha	0 ha	水稻、野菜、果樹	0.6 ha	0 ha	A	大阪版
認農	B	水稻	0.6 ha	0 ha	水稻	0.6 ha	0 ha	B	
利用者	C	水稻、野菜	0.7 ha	0 ha	水稻、野菜	0.7 ha	0 ha	C	大阪版
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
計	3経営体		1.9 ha	0 ha		1.9 ha	0 ha		

注1:「属性」欄には、認定農業は「認農」、認定新規就農者は「認就」、法人化を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農は「集」、基本構想水準到達者は「到達」、農業協同組合は「農協」、農業支援サービス事業者(農協を除く)は「サ」、上記に該当しない農用地等を継続的に利用する者は「利用者」の属性を記載してください。
2:「経営面積」「作業受託面積」欄には、地域計画の対象地域内における農業を担う者の経営面積、作業受託面積を記載してください。
3:農業を担う者に位置付ける場合は、できる限りその者から同意を得ていること。
4:作業受託面積には、基幹3作業の実面積を記載してください。なお特定農作業受託面積は、作業受託面積に含めず、経営面積に含めてください。
5:備考欄には、農業を担う者として位置付けられた者に不測の事態に備えて、代わりに利用する者を記載するよう努めてください。

5 農業支援サービス事業者一覧(任意記載事項)

番号	事業体名 (氏名・名称)	作業内容	対象品目

6 目標地図(別添のとおり)

7 基盤法第22条の3(地域計画に係る提案の特例)を活用する場合には、以下を記載してください。

農用地所有者等数(人)		うち計画同意者数(人・%)	
-------------	--	---------------	--

注1:「農用地所有者等」欄には、区域内の農用地等の所有者、賃借人等の使用収益権者の数を記載してください。

注2:「うち計画同意者数」欄には、同意者数を記載してください。

注3:提案する地区の対象となる範囲を目標地図に明記してください。

(留意事項)

農業を担う者を位置付ける際、これらの者の氏名が含まれた地域計画について、法令に基づく手続として、本人の同意なく、関係者の意見聴取や、地域計画の案の縦覧、地域計画の公告を行うことができますが、個人情報を保有するに当たっては、利用目的をできる限り特定し、本人から直接書面に記録された個人情報を取得するときは、あらかじめ、本人に対し、その利用目的を明示してください。

また、市町村の公報への掲載等とは別に、インターネットの利用により関係者以外の不特定多数に対して情報を提供する場合、氏名を削除するなど配慮してください。

必要に応じて区域内の農用地の一覧を参考として添付してください。